

2026年の春 日本から 世界を 見渡して感じる



熊本県立大学長 **堤 裕昭**
Tsutsumi Hiroaki

世界史を顧みると、国力を増した国が周辺域へ勢力を拡大し、戦いで手中に収めようとするのが繰り返されてきました。2020年代にも同様の動きは続いています。そして、我々もそれを歴史上何度も行ったことを忘れてはいけません。その一例は20世紀中頃の「大東亜共栄圏構想」です。日本は東アジア地域の盟主たらんと、西欧列強との無謀な戦いに挑み、一方で他の東アジア諸国に攻め入り、人々に対して横柄な振る舞いや態度を示しました。その結果として、日本国民が後に被った損害は計り知れません。我々はこの歴史への反省を基礎に置き、戦後の混乱から這い上がり、平和で豊かで平等な社会を築く努力を重ねてきました。でも、まだ80年程の歳月が流れたに過ぎません。

今世界に目を見渡すと、20世紀初頭～中頃に起きたことの再来とも言うべき出来事が相次いでいます。幸いなことに、そこに日本は首謀者として関わってはいません。この80年の間、日本は戦後の荒廃した状態から努力を重ねて目覚ましい経済

発展を遂げ、その成果の一部を世界の福祉に還元してきました。自己の価値観を押しつけるのではなく、困難に直面する人々に寄り添い、自主的な発展を支えるかたちで世界に貢献してきました。このような活動は先の戦争への真摯な反省に基づくものでありますが、同時に誇るべき実績でもあります。先達の努力が実を結び、見事な経済発展を遂げた後もなお謙虚さを忘れず、世界の人々の幸福を願い、地道な支援活動を続ける。この姿勢こそ、日本が世界に示し続けるべき態度であり、行動であると確信します。

大学生としての日々を過ごす皆さんには、各自が志す学問の領域を深めるとともに、個人の生き方、社会との向き合い方、そして世界との関わりについて考えてほしいと思います。友人、先輩、教員と語り合ってみてください。この国や世界の未来は世の流れの中で決まっていくだけではありません。皆さん自身の努力で望む姿に創りあげることができます。